

2022年京都北部ブロック短期計画の振り返り

1. 世界代表司教会議(シノドス)のテーマ「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教」を深めます。

- シノドス10の質問についての「わかちあい」、「アンケート」(西舞鶴・東舞鶴・福知山・丹後)
 - ・「教会」や「信仰」、「ともに歩む」について考え、小教区の現状や課題を言葉にして共有できた。「交わり」、「参加」の第一歩を踏み出す機会となり、とても良かった。
 - ・今後はその思いをミサや教会活動の中に生かしていけるように取り組んでいきたい。
 - ・「シノドスのための祈り」を唱え、評議会やミサで心の一致を目指した。
 - ・ブロック会議にて各教会の「わかちあい」を共有し、ブロックとしても「ともに歩む」を実感できた。

2. 教会の本質的な営みである「ミサ」について学びます。

- 典礼勉強会(西舞鶴・丹後で、主に「ローマ典礼総則」(暫定版)を用いて)
- ZOOMによる新しい式次第についての研修や担当司祭からの説明(東・西舞鶴・丹後)
- 日々の典礼奉仕(侍者、朗読、先唱、オルガニスト、香部屋係など)しながら、その意味を学び直している。(西舞鶴)

3. 外国の方々と力を合わせて、共同体づくりを進めます。

- 外国人や他教区から来られた信徒などに対する声掛け
 - ・新しく来られた方々をミサで紹介し、心からの歓迎が伝わるように努力。今後は、外国の方々に限らず、これまで以上に「多様性」を大切にしたい。共同体づくりを推し進めたい。(西舞鶴)
 - ・新しく来られた方に困っていることなどに対する相談(東舞鶴)
- 侍者、朗読奉仕、聖堂のお花当番等の役割分担(東舞鶴・丹後)
- 国際ミサ、ベトナム語ミサ
 - ・国際ミサ(月1回) コロナ禍で外国籍の参加者は少ない。(丹後・西舞鶴)
 - ・国際ミサ(第一日曜日を除いて毎週1回)、ベトナム語ミサ(ベトナム人司祭 年3回)(福知山)

4. 弱い立場の人々に寄り添う活動を進めます。

- 毎年、援助団体を通してホームレスの方々に米や衣服の提供を行っている。(西舞鶴)
- ウクライナへの継続的な寄付や祈りの支援(東舞鶴・丹後)
- クリスマスの特別献金、火災被害を受けた外国籍信徒のための募金の呼び掛け(丹後)
- 可能な範囲で病者への聖体奉仕を再開し始めた。(丹後)
- 外国籍信徒の方々や新しく来られた方の困り事の相談(丹後)
- コロナ以来、各家庭に教会からのお知らせや「聖書と典礼」を送付(東舞鶴・丹後)
- 教会に来られない方への訪問は今年もできなかった。コロナの状況をみながら再開したい。(東舞鶴)

【各小教区の現状報告と課題】

福知山	3/27(日)洗礼志願式・初聖体 4/3(日)司教ミサ 4/16(土)洗礼式5名 4/19(火)ランディ神父様離任・アントニオ神父様着任 10/9(日)司教ミサ 10/23(日)聖母行列・国際ミサ ベトナム語ミサ(5/29 フー神父様・7/24 サック神父様・10/30 ロ・ダム神父様) 恒例のコンサート・バザーは実施できず。
東舞鶴	コロナ禍で行事は実施できなかった。ミサ後の教会掃除に多くの信徒が参加し交流の場となった。ミサを班ごとの参加にした。コロナ禍で聖堂の開扉が出来ず、個人が自由に祈りに来ることが出来なかった。若いベトナム人が若干増加。さらに外国籍の方々との交流を推し進めたい。
西舞鶴	評議員、役員を引き受け手が無い。奉仕者である個々の信徒と評議会という組織が噛み合っていないと感じる。若い信徒の進学や就職による市外転出、小・中高校生もその親も双方多忙、教会には次世代の信徒の姿が無い。教会奉仕は大半が女性で、男性信徒は年齢を問わず少ない。
丹後	コロナ禍でなかなか集まれず、動きが取れなかった。少子高齢化で、典礼奉仕者が減少。1小教区に今なお6つの聖堂があり、組織的な運営が難しい。

2022年の洛北ブロック 宣教司牧短期計画の分かち合い

<2022年洛北ブロック短期計画>

- ① 各々が生活の場でキリストを体験し、キリストと出会うことを意識化し、味わい、深めていくことができるように、教会共同体におけるあらゆる企画をキリストの体験へと方向付けます。
- ② キリストを体験することで、各々が自己中心的な信仰観や無関心、囚われから解放され、お互いがお互いを大切にできる教会共同体作りを目指します。特に大きな教会では、小グループ作りを推奨しお互いの生活がみえる家族、仲間づくりを模索します。
- ③ 小教区の枠組みを超えて、オンラインなども活用した参加可能な黙想会、信仰入門講座、聖書通読講座、典礼研修会、分かち合いなどを目指します。
- ④ ブロックで協力して小学生、中学生、青年、すべての世代の信仰教育に取り組みます。また西陣教会内の望洋庵と連携していきます。
地域社会や地域の諸団体との連帯をコロナ禍のなかで模索します。

<短期計画の分かち合い> 9/10ブロック会議の時点。どの小教区もミサの休止中

- ① **キリストと出会う体験ができています。**
 - ・コロナは、むしろ、キリストとの出会いを考え直す期間になっている。
 - ・若い人たちはSNSでつながっている。これは、ある意味で、聖霊の働きではないか？
 - ・最近、隠れキリシタンのことをよく思い起こす。見習いながら、やっていきたい。
- ② **小グループ作りはうまく進んでいない。→ 一部、うまく進むきざしもある。**
 - ・教会の部活動は、コロナの中、計画しても実践にまで進んでいかない。
 - ・信徒の半分はお年寄りなので、10年後、15年後に立ちゆくか、心配である。
 - ・まずは、会える人の間で、交流を深めていきたい。車で送ってさしあげる、など。自分にはそれくらいしかできないが、それくらいならできる。
- ③ **オンラインは、一部で活用できている。**
 - ・ミサさえもできない中、共同体の活動を行うことは難しい。ただ、子供たちだけは、Zoomで担当司祭とつながって、成長できたという手ごたえがある。
 - ・中高年信徒の間でメールやラインが盛んになりそうな様子がある。
- ④ **ブロックでの信徒の交流や信仰教育は、うまく進まない。→ 一部、うまく進むきざしもある。**
 - ・ブロックでの小学生向けの活動をしようと計画しても、コロナが再拡大しタイミングをとりづらい。
 - ・ミサ再開から2か月を経た昨今、小教区で始まった「キリスト教のエッセンスを学ぶ会」という信徒主導の勉強会に対して、小教区はもちろん、その枠を超えた参加者もあり、交流や信仰教育がうまく進んでいる面がある。
- ⑤ **全体として**
 - ・コロナ禍の中、皆の信仰は深まっていると感じる。神様は意味のあることをしておられるので、何か、新しくチャレンジする力が生まれてきていると思う。

2022年度洛東ブロック宣教司牧計画 振り返り

10月22日洛東ブロック会議での振り返り

長期計画Ⅰ ブロック全体に開かれた分かち合いの場を設け、小教区間のつながりを深めてゆく。	
振り返り	短期計画1 中高生・青年の集いを行う。
	ブロック行事として、9/25(日)徒歩巡礼 河原町協会→円山公園→將軍塚 を行った。 高2男子1名、中3女子1名・中2女子1名、青年7名(内1名伏見)、菅原神父様、スタッフ1名 計12名
振り返り	短期計画2 「いのち・平和・環境の集い」(分かち合い)を行う。
	本年度はブロックとしての計画はできなかった。
長期計画Ⅱ 各小教区固有の学び、祈り、活動(地域との交わり、国際協力など)、交流行事をブロック共同体の福音宣教活動として共有する。	
振り返り	短期計画1 「コロナ時代に生きる信仰」をテーマに四旬節黙想会を行う。
	ブロック行事として、3/20 瀧野神父様のご指導で、担当教会を桃山教会とし、会場を伏見教会として実施。 「コロナ時代に生きる信仰～共に旅をする～」のご講話とゆるしの秘跡に与った。ミサ参加者125名 ご講話参加者45名
振り返り	短期計画2 「病者の日」(ミサ)を行う。
	ミサ休止期間となり、2/27に、菅原神父様にオンラインミサで行っていただき、各小教区で作成した共同祈願の意向を代読いただきました。
振り返り	短期計画3 国際交流を行う。
	河原町 英語ミサの参列者も減少し、実態把握が難しい状況。
	伏見 ベトナム人の信者が熱心に教会に足を運んでおり(約100名)、ベトナム語の「みことば」(聖書と典礼)50冊を購入・準備、「ベトナム語のミサ」、「ベトナムの人達と共に捧げるミサ」を行っている。結婚して日本に長期滞在したり、家族で教会に通う者も増えており、今後、意見交換を河活発に行い、多国籍の共同体の在り方を考えていきたい。
	桃山 コロナ禍のため様子見をしていたが、11/20に折り紙の集いを行う予定をしている。ミサの後、外国の方や、初めての方に参加していただき、コミュニケーションをはかる一つのきっかけにしたいと計画した。コロナ様子を見ながら続けていく予定にしている。
山科 積極的な活動は行っていません。引き続き、外国語版の『聖書と典礼』を準備し、外国人の方をいつでも迎えられるようにします。	
長期計画Ⅲ ブロック内小教区の多様性を活かしながら、ブロック全体として取り組める福音宣教の可能性を模索する。	
振り返り	短期計画1 平和旬間行事を行う。
	河原町 河原町協会では正平協の「写真展」が行われた。
	伏見 日本カトリック平和旬間(8/6～8/15)でのミサ等において平和を祈り、祈願を行った。(8/7 年間第19主日集会祭儀、8/14 年間第20主日ミサ・追悼祈願ミサ、8/15 聖母の被昇天集会祭儀)
	桃山 8/15に生きたロザリオの祈りを実施し、5つの玄義を平和のための祈りとした。5つの玄義は各部会で1玄義ずつ平和のための祈りとして作成した。
山科 8/7の『年間第19主日』の集会祭儀で、教区一斉平和祈願を行いました。8/15の『聖母の被昇天』(集会祭儀)では世界平和のために祈り、集会祭儀後に1分間の黙祷と共に、鐘塔の鐘を鳴らしました。	
振り返り	短期計画2 「防災の日」を設ける。
	河原町 昨年は非常口の確認を行ったが、今年は取り組みなし。
	伏見 防災(避難)計画について管轄消防・聖母学園等と相談を行うと共に、災害時の対応(火災・地震)についても検討しておきたい。
	桃山 9/11に避難訓練を実施。非常階段を使って避難した後、消火器の場所を確認し、防災について話し合った。10/30に消防署の方による消火器訓練の実施を予定している。
山科 9月第1日曜日を「防災の日」とし、行事を検討したが、具体的な活動はできなかった。無理に大がかりな内容を企画せず、まずは信徒の皆様へ「防災の日」を認識していただくことから始めたいと考えています。	
振り返り	短期計画3 「エコロジー」の取り組みを行う。
	河原町 工事中で、活動場所が確保できない状況。
	伏見 現在、切手・ペットボトルキャップの回収を継続して行っているが、各部会においてエコロジー、SDGs、気候変動対策でどんな取り組みができるかを考えていきたい。
	桃山 今まで行ってきたペットボトルのキャップの回収、ウエス切りを継続して行った。
山科 具体的な取り組みは出来ていません。持続性のある、教会全体として取り組める活動内容を検討します。	
総評	
<p>コロナ禍で感染防止対策・行動制限がある中、可能な範囲で活動を行った。状況の好転を祈りつつ、次年度の活動に繋げてゆきたい。</p> <p>2023年の年間計画については2023年1月のブロック会議で討議して決定する。</p> <p>なお、四旬節黙想会については、2023年は1箇所で開催して行うのではなく、各小教区で行い、四旬節のゆるしの秘跡を各小教区で預れるようにする。</p>	

【2022年 京丹ブロック短期計画ふりかえり】

〈2022年短期計画の趣旨〉

- 1、司教年頭書簡のテーマである「キリスト者の終活を始めよう」への取り組み。
- 2、コロナ時代の信仰生活のあり方の模索。
- 3、「あらゆるものはつながっている」という視点、シノドス(ともに歩む教会)というあり方の具体化。

〈ふりかえり〉

- ① 短期計画1については、各小教区で分かち合いが計画されたが、コロナ禍の影響でほとんど実現できなかった。
- ② 短期計画2については、新型コロナウイルス感染拡大の中、ミサの制限など「集まる」機会が少ないながらも信者相互間コミュニケーションと安否の確認のため、HP(ブロックおよび各小教区で開設)や、SNS(LINE、フェイスブックページ等)、メールの活用を工夫して取り組んでいる。情報機器活用に不慣れな方がたへの連絡(電話、FAX、手紙)も継続しながらの取り組みである。
オンラインでのミサ、みことばの祭儀、講座などの継続は、健康面で外出に不安がある方の信仰生活の支えとなっている。また、インターネット環境のない方への配慮も行なわれている。
- ③ 短期計画3については、特に外国籍の若者を大切にするためのLINE開設により、歩みをともにすることができるよう取り組んでいる。

また、社会とのつながりを深める新たな試みとして、「食料無料配付活動」の場所提供と奉仕を始めた。

さらに、コロナ禍およびウクライナ・ロシアの戦争といった状況にあって、共同体として祈り続けることで、困難の中にある人びとのことを思い起こし、つながりを保っている。

- ④ シノドスの分かち合いについては、コロナの影響下、小教区ごとに、それぞれの特徴を活かした方法を工夫しながら行われ、ブロック会議において、各小教区の取り組みについて分かち合われた。シノドスのための祈りは継続している。また、シノドスの歩みを継続していくこと、教会のすべての活動はシノドスであることを、繰り返し確認している。

2022年度 宣教司牧計画の振り返り

山城ブロックの活動をブロック会議の議事録よりまとめた

ブロック会議（オンライン開催 1回、対面での開催 4回）

2月26日 オンライン開催 国際交流部の活動なし

4月23日 対面での開催（青谷教会）

◎新たに山城ブロックの担当者となった

◎ホン神父、シスターリーナが初参加

◎シスターニダ、アントニオ神父さまの異動に伴って、

コロナ禍で活動を停止していたフィリッピン会（宇治）が解散

6月25日 対面での開催（田辺教会）

◎国際協力部 7月より英語ミサ再開

宇治教会 毎月第一日曜日 14時より

担当 奈良北部ブロック ランディ神父

英語ミサ再開について、Facebook、教会のHPなどで再開の広報

◎ブロックの小教区間の交流が途絶えていることからブロック広報部の再構築して

山城ブロックだより発行を目指す

9月17日 対面での開催（宇治教会）

◎広報部 山城ブロックだより21号を12月24日発行予定として編集作業進行中

◎カテキスタ養成講座の受講者 宇治教会より1名

11月19日 対面での開催（八幡教会）

◎合同堅信式 山城ブロック 7名

◎2023年度の宣教司牧計画 採択

2022 年度滋賀ブロック宣教司牧計画案

長期計画①

互いに理解を深め、兄弟的一致を目指し、聖霊に満たされた共同体を作っていきます。

短期計画①

- 1) 2021 年滋賀ブロック宣教司牧計画を教会内においてお知らせ等を活用し、信徒への周知に向けてとり組みます。(→そのまま来年も)
 - ・計画を周知していなかった。
- 2) 滋賀ブロックの行事(1 典礼研修会、2 安土セミナリオ、3 平和旬間ミサ、4 びわこウォーカーソン、5、教会学校キャンプ)および主日のミサに各国コミュニティから多くの参加を目指して、教区の方針に基づいて1つの共同体を作ります。(そのまま来年も)
 - ・実行委員会を開いてコロナ禍にもかかわらず、すべて実施した。
 - ・集まる機会は減ったが、ウェブを使うなど工夫し、皆さん努力した。
 - ・特に、安土は研修費の改修という長年の懸案に取り組んだ。
- 3) 教区・ブロック・小教区が主催する講座などを紹介し、また、日曜学校や日帰りブロック教会キャンプ等小中高生の教育や聖書の分かち合い・講座再開にも努力します。
 - ・日曜学校を再開できた教会が多い。しかも、ズームを屈指した。初聖体・堅信など。

長期計画②

日々の生活を通して全ての人にキリストの福音を述べ伝えていきましょう。

短期計画②

- 1) 自然災害で被害を受けた方や貧しい(虐げられた)人たちに対して、積極的な支援を継続して行っています。
 - ・自然災害での被害は募金できなかったが、対ウクライナやウォーカーソンを通して献金を集めた。平和の祈り・平和のポスター等も今年は充実していた。
- 2) 各小教区が福音宣教についてシノドスの分かち合いなどを通して具体的な方法(教会の基本的な活動、病者の訪問など)、やり方を考え実行します。
 - ・来年は病者の訪問など教会の基本的な活動を行いたい。
 - ・聖書の学びと聖書の分かち合い、講座の再開。
 - ・シノドスを通して、これからの福音宣教を考える機会になった。
 - ・シノドスの分かち合いを来年も行いたい。お祈りも。
- 3) 初めて教会に来た方々に声をかけ、交わりの輪を広げます。
 - ・コロナ禍なので初めて教会に来られた方が少なかった。
 - ・海外から来られた方は多かった。

2022年度 奈良ブロック活動報告

実行委員会活動報告

2022年度もコロナ感染拡大予防の観点から、思うような活動ができない 1 年となりました。

実行委員会としては、開催方法等に工夫を凝らすことで、聖書講座委員会とウォーカーソン委員会で開催することができました。

聖書講座

具体的には、聖書講座については、2021年度に始めたオンライン配信に加えて2022年度は、4月～6月には、4回の対面講座も実施いたしました。

オンライン配信で分かったこととしては、以下の通りです。

10月10日時点で視聴回数 2436回 実質視聴回数 1254回 1回の視聴時間は、10分程度と短いことがわかりました。

京都教区でもオンライン配信がありますので、2023年度は、対面形式のみの開催といたします。

ウォーカーソン

2022年度は、中止。2021年度から小教区単位でミニウォーカーソンもしくは、募金を募る方式で行い、支援先の世界の恵まれない子供たちへ募金確保を開始いたしました。2022年度についてウォーカーソン実行委員会のメンバーから通常開催しては、との意見もありましたが、「世界の子供たちの為に歩いています」といった内容の幟を持って歩くことで、街ゆく人たちから賛意を買うことになると逆効果つながると思い2021年度と同様、小教区単位で募金若しくはミニウォーカーソンを行うことといたしました。例年の通常開催は、毎年11月23日に開催しており、募金活動・ミニウォーカーソンも開催時期を合わせて活動している関係上、現時点での参加者数 募金金額などの報告ができません。

上記、聖書講座実行委員会の活動は、奈良ブロック短期目標2に叶う活動でもあり、ウォーカーソンの活動も直接、短期目標3につながりませんが、滞日の方々には、送金先(支援先)の中に、フィリピンにある施設への支援もありフィリピンの方々とは、より親しくなる機会になってと思っています。

奈良ブロック会議活動報告

本年度の9月開催のブロック会議から、協議事項以外にも、問題提起して頂いて、小教区ごとの取り組み話し合う場となりました。

始めたばかりでどうなるか今後には託されますが、新たな動きです。

9月は、コロナ禍での活動について、11月は、小教区の子供たち(高校生以下)をめぐる現状について。 今後も、継続したいと思います。

2022年度三重北部ブロック宣教司牧計画 実施報告書

2022年11月27日

教区 優先課題	京都教区は、21世紀を迎え、次の5つを宣教の優先課題として取り組みます。 1.共同宣教司牧を推進して、果敢に福音宣教する教会共同体になっていきます。 2.滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります。 3.青少年の育成に力を入れます。 4.信徒の生涯養成と、信徒の奉仕職を充実させていきます。 5.「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。		
長期計画 2018年～	①司祭誕生を目指し、小・中学生への信仰教育を充実する。 ②教会活動、青年部活動の活性化、中・高校生の教会活動への参加の強化策を策定。 ・教会活動に参加する人数を増やし、信徒全員が「一人一役」として係われる共同体作り。 ・多文化、国際協力、社会活動貢献。 ・青年部活動の発展		
	短期計画(ブロック)	担 当	実施状況
長期計画 ①	短期計画① 侍者研修会 侍者研修会に向けて、司牧者チームで動作について確認する。	司牧者チーム 教育部 典礼部	各教会で実施 11/13 四日市教会 11/27 桑名教会 7/24 鈴鹿教会
	短期計画② サマーキャンプ 7月24日(日)～26日(火)に実施する。	北部ブロック 教師会	鈴鹿教会 7/24 日帰りで行った。
	短期計画③ 三重北部合同堅信式 6月12日：三位一体の主日、司教様都合で変更有。 企画を行い、未受堅者に堅信を受けるよう呼び掛け、準備の勉強を実施する。	四日市教会または 鈴鹿教会 司牧者 各教育部	三重県合同堅信式 11/20津教会 四日市教会12名 鈴鹿教会18名
	短期計画④ ブロック交流会 6月5日：聖霊降臨日 青年、外国人信徒、日本人信徒の活動できる機会を増やせるように準備する。	桑名教会	ブロック交流会 6/4コロナのため、役員のみ15名で行った。
長期計画 ②	短期計画⑤ 勉強会 各教会で実施している聖書等の勉強会をお互いに知らせ合い、勉強会に参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	合同では行っていないが 教会・個人的に行っている。 洗礼志願者の勉強会も行った。
	短期計画⑥ 黙想会 各教会で実施する黙想会をお互いに知らせ合い、参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	四日市教会・桑名教会 共同告解 鈴鹿教会 3/20神言会ディエム神父様黙想会
(注) *新型コロナウイルス感染の状況によっては計画の中止、変更がある。 *参加人数を制限して実施する場合 ・短期計画①侍者研修会：各教会からの参加は5人とする。または各教会ごとにブロック主催で行う。 ・短期計画②サマーキャンプ：参加人数を制限する。または各教会ごとにブロック主催で行う。			